平成 24 年度「みえの現場・すごいやんかトーク」（川越町）の概要

８月３０日（木）に川越町高松公民館で「みえの現場・すごいやんかトーク」を開催しました。

当日は、川越町高松地区社会福祉協議会の皆さん７名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。

【参加者からの発言】

参加者の皆さんからは、以下のようなご意見をいただきました。

○ 高松地区でも両隣とお付き合いがない、名前を知らないという方も見受けられる。社協では、こういう孤立をしてしまいそうな区民の皆さんに対して、共に助け合い、事故や犯罪に対して安全で安心な地域社会を目指して活動している。

○ 「笑顔であいさつ　ふれあいのまち高松」をキャッチフレーズに相互に触れ合いの機会を増やしたり、気軽に参加できるような会合を持つことから始めている。

○ 青年団の人数が少なくなってきて、地元の「足上げ祭」の運営が難しくなってきた。そのため、人出が減っても太鼓を引っ張れるよう、今までの鉄の輪からゴムの輪に変更した。また、「足上げ祭保存会」を組織し、祭りに参加したい人が参加できるようにした。

○ 老人会のメンバー20 人でゴミステーションの監視を行っているが、区民の方から「ご苦労さま」とあいさつされたりすると、とても嬉しくなる。また、ゴミの出し

方のルールが守られるようになってきた。

○ 一人暮らしの方と 70 歳以上の二人暮らしの方に「安心カプセル」として緊急連絡先や薬の情報などを書いてもらう活動をしている。一人暮らしの方には、全員に書いてもらえた。

○ 高松サロンを 2 ヶ月に 1 回開催しているが、参加される方が隣近所の参加される方を気にしていただく。隣近所を少しでも気にかけてくれる世代が増えてくれば非常に有り難い。

○ ３世代交流餅つき大会を開催し、３５０名強の人が来ていただいた。年々参加者が増えてきた。役員がアイデアを出し合って開催するので非常に大変ですが、成功した時は喜びもある。

○ 社協での活動をやってて良かったのは、色々な人とのコミュニケーションが取れたこと。この子どもは、どこに住んでいて、誰の子どもというのが分かるのは、防災の関係でもいい面がある。どこの家に何人住んでいるのかが分かっていないと、1 人助けたのはいいけど、あと何人残ってるのか分からず、助けの時間が遅れてしまう。

○ 地元の祭を取材等で取り上げてもらったときには、やっている本人たちも盛り上がった。

○ 区のリーダーを養成していかなければならない。

【知事の発言】

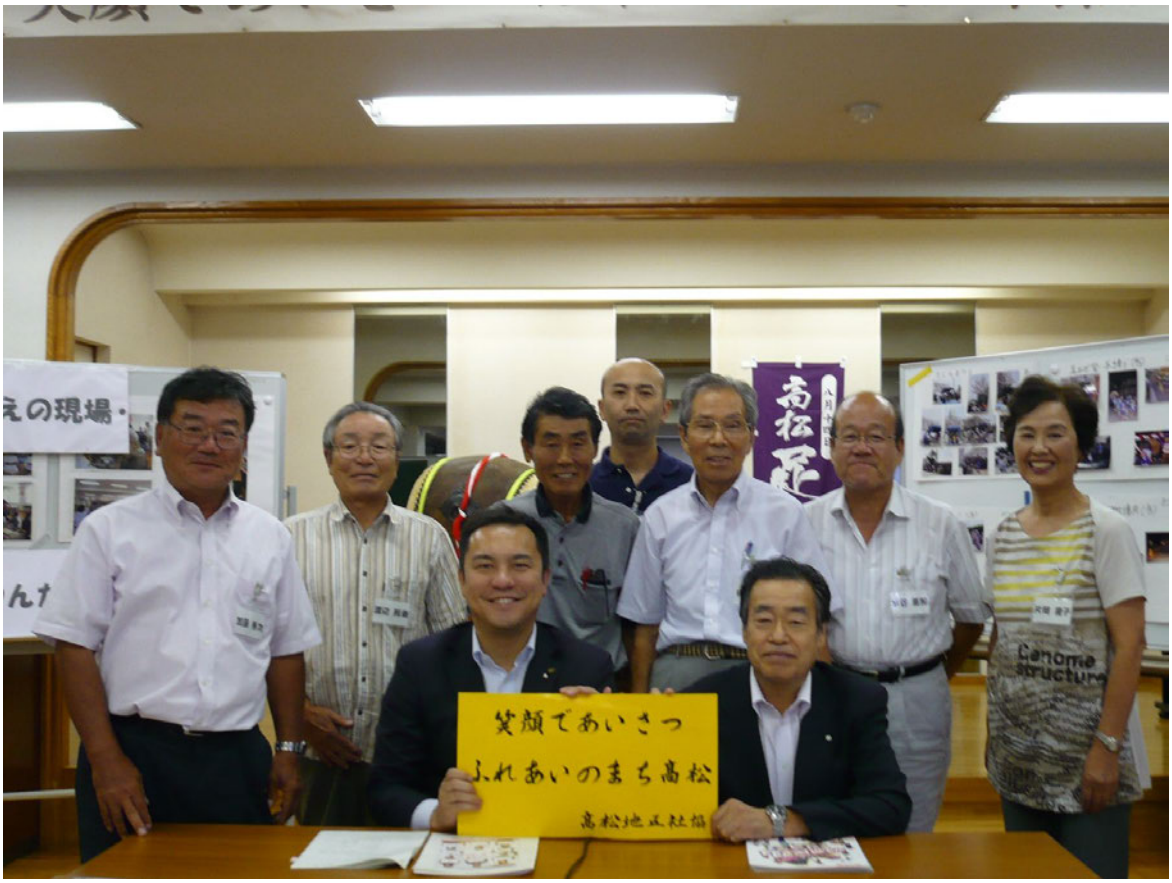
皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

○ 「笑顔であいさつ」運動は、本当に素晴らしいと思う。ディズニーランドと同じコンセプトであり、是非、幸せを提供できる地区になって欲しい。

○ 「安心カプセル」は、災害の時に役立つ。そういう一目で見て病状とかが分かるような、どういう薬を飲んでるのかという安心カプセルは、いい取組ですね。

○ 常に引き継いでいくということを意識して活動されているのはすごいなと思う。太鼓を引っ張るのを軽くするなど、みんなで知恵を出し合って何とか引き継いでいこうという取組は、先進的だ。

○ 新しく策定した県の長期の戦略計画「みえ県民力ビジョン」に「協創」というキーワードがあって、一緒にするだけでなく何か成果を出していく、協働を一歩進めるということだが、今日お聞きした高松地区の取組は、まさしく「協創」にふさわしい。


笑顔であいさつ
ふれあいのまち高松
高松地区社協
高松